

豊島岡女子学園中学高等学校校長

二木 謙一
ふたき けんいち



「これからの図書館」

高野之夫区長がこれまで進めてきた、「文化を基軸としたまちづくり」の環として、新中央図書館がオープンしたことは、まさに喜ばしいことである。
かつては図書館といえば、専門書・貴重書など背表紙のある図書・本が中心であった。図書に触れることの大切さは、昔も今も変わらないが、時代は大きく変化している。
大学図書館でいえば、予算は一般図書の購入よりも、電子図書やITによる情報およびデータ利用契約の支出が

主流である。また複数の大学がコンソーシアム（図書館間相互交流）を形成し、学生は加盟する他大学の図書館をも利用できる。そして乗客の窓口はメディアサービスと称し、従来のレファレンスや読書相談にとどまらず、内外の種々な情報提供に及ぶことが必要となっている。図書館もまさに情報・メディアの時代にある。
それゆえに交通の便に恵まれた新中央図書館への期待も大きい。全国の研究機関・図書館・博物館・美術館などの提携による情報・メディアのサー

ビスはもとより、地域文化の発信拠点になって欲しい。

昭和15年生。国学院大学大学院博士課程修了。文学博士。国学院大学文学部教授を経て、現在は豊島岡女子学園中学高等学校校長・国学院大学名誉教授。著書に「中世武家儀礼の研究」「時代劇と風俗考証」「合戦の文化史」ほか。



豊島区立中央図書館報

第2号/隔月刊

2007

と し ょ か ん つ う し ん 図書館通信

館通信

トピックス

- 図書館新航路(1) 1ページ
- 中央図書館特別講演会 4ページ
- 地域研究セミナー 4ページ

発行 豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四 五一一
ライズアリーナビル四階 TEL 03-3983-1111
電話 03-3983-7886
FAX 03-3983-9904
ホームページ <http://www.library.toshima.tokyo.jp>
発行日 平成19年9月



シリス 図書館新航路 【1】

豊島区立図書館の現状と課題

豊島区には、全館のセンター的機能をもつ中央図書館（点字図書館を含む）と各地域の区立図書館6館があります。この欄では今回から、これら区立図書館の現状と今後の課題を取り上げ、その課題解決に向けた展望や具体的な取り組みを連載していきます。

魅力ある図書館づくり

図書館の魅力は、なんと言ってもあらゆるジャンルの膨大な蔵書です。7月末現在、区立図書館の蔵書・資料総数は約75万点にのぼります。中央図書館では、基本図書の蔵書を充実したのみでなく、新たに設けられた「文化・芸術コーナー」や「ビジネス支援コーナー」では、落語やビジネスニュースに関する豊富な資料が並んでいます。

また、地域図書館においても今年度から、地域にゆかりのある資料を収集する「特色ある地域図書館」事業を展開しています。しかし、こうした特色ある事業が、区民の文化や芸術に親しむニーズを満たしていくには、地域の歴史や文化に精通し、的確な資料の収集とレファレンスができる職員の配置が不可欠であり、そうした人材の育成が今後の大きな課題の一つといえます。

情報発信拠点としての図書館づくり

中央図書館では、劇場「あうるすぽっと」と連携し、劇場で上演される舞台芸術に関連する図書資料等の展示を行っています。これは、観劇の前後に関連資料に目を通すことで、その作品に対する理解をさらに深めていただけるように企画したものです。また、同様の趣旨で、講演会や郷土史などを学ぶゼミナールでも、併せて関連資料をご紹介し、新しい本との出会いや、わがまち豊島区の歴史と文化を知る機会を提供しています。

今後は、区内の他の文化施設とも、こうした連携を一層強化していくことが課題です。

中央図書館の開館時に皆様にご協力いただいたアンケート調査では、講演会やゼミナールのテーマ、あるいは招いてほしい講師など多くのご要望を寄せていただきました。こうした皆様のご意見を今後の事業にできる限り反映していきたいと考えています。

誰もが安心・快適な図書館づくり

地域図書館のうち目白図書館は、本年9月から約1年をかけて全面改修工事を実施し、千早図書館も将来的には西部地域複合施設に移転する予定です。今後は、築後39年を経た巣鴨図書館など老朽化した施設をどのように整備していくかが課題です。

このほかにも図書館をとりまく課題としては、区が進める構造改革の推進と財政の効率化を念頭に置いた「管理運営体制の見直し」などがありますが、これらについては次号以下で触れさせていただきます。

本のある風景



写真提供：小仲やすえ

「本のある風景」写真の投稿を募集します。詳細は中央図書館企画調整担当へご連絡ください。電話 03-3983-7861

Current & Encounter

豊島区図書館行政政策顧問
粕谷 一希

月刊誌の編集を生涯つづけてきた私は、問題を時の流れの中で考えるという習性を身にかけてきました。また、英語の「エンカウンター」は、出会い、邂逅、遭遇といった意味だが、かつて英国に同名の高級誌があったという「流れと出会い」とした次第である。

先日、池袋東口の古本屋、往来座で、「図録・小野村 生誕百五〇周年記念」早稲田大学編を見つけた。二〇〇二年の刊であるから、五年前のこと、豊富なカラー写真を使った一〇〇頁のA5版が一八七〇円とは安い。

私の小野村に関する知識はきわめて乏しいが、前から気にかかる存在として、脳裏に刻みつけられている。明治十九年、三十三歳で亡くなった天才小野村は、もし長命であれば、日本の近代史を大きく変えたであろう先見性のある存在であった。ぶつう、明治初期の政党と言えればより急速的な自由党が脚光を浴び、戦後史学の焦点は自由党であり、小野村より、植木枝盛、馬場辰猪であった。

私が関心を深めたのは、小野村が、「よき社会をつくるためには、よき政党、よき大学、よき出版社がなければならない」と語り、同時にそれを具体的に実践したことである。すなわち、改進黨という政党、早稲田大学（東京専門学校）という大学、東洋書館という出版社を短い生涯の中で平行して実践した点である。

とくに、出版社を大切な存在として指摘した政治家や思想家は、明治以降他に聞いたことがない。出版屋の私はこよなくそのことが嬉しい。小野村の眼は、文明の全体を見渡しており、単なる政治家というより、文明の建設者だったことである。

彼の留学した英国では、マクミラン社社長が首相になつた。衰退過程にある日本の出版界では、受験関連企業も広告代理店もすべて同じメディア産業として横並びである。

図書館がおすすめする本「秋の夜長にこの一冊」

各界の第一線で活躍中の皆さんが
生涯の友として愛読する書をご紹介します。

生涯の一冊 (1)



「冬の鷹」吉村昭
(株)新潮社



豊島区教育長
日高 芳一

「解体新書」に学ぶ

今から、二百年以上も前に刊行された「解体新書」。日本最初のオランダ語医書の翻訳という前人未到の偉業を成し遂げた杉田玄白と前野良沢は、西洋の男女が向かい合い立っている有名な扉絵とともに小学校から高校の社会科学教科書には、必ず登場する。

当時は、オランダ語の辞書もなく、一年に僅か十行程度を読めるという気の遠くなるような話である。しかし、根気と強靱な意志により四年の歳月と十一回の改稿を経た翻訳である。「誠に難航なき船の大海に乗り出だせしが如く、茫洋として寄るべきかたなく、ただあきれにあきれて居たるまでなり。」と当時の苦心を玄白は「蘭学事始」で書いている。

言葉に絶するほどの努力と犠牲を払って完成させた「解体新書」の訳者として玄白の名はあっても、翻訳の中心の役割を果たした良沢の名は無い。「世に良沢という人なくばこの道ひらくべからず」と玄白に言わし

めるほどの翻訳者であるにもかかわらず、名を載せることをかたくなに辞退したのである。

「解体新書」出版後は、漢方医たちの厳しい批判もあったが、蘭法医学へと流れが変わる。玄白の名前はががて全国に轟き、確固たる地位を築きあげた。

良沢は、無名の老人としてオランダ語の研究一筋に専念する。

この二人の対照的な生き方とともに、良沢の生き方は、当時教材研究のための資料収集に奔走していた私に強烈な印象を与えた。

良沢の生き方は、富でも名誉もなく、ただオランダ語を極めることのみを生業のすべてを注ぎ込むと知的で、尊敬とも驚異とも言えぬ深い感動を覚えた。草創期の蘭学者たちのなんと知的で、創造的であることが。様々な時代の流れの中で、自分の信念を貫き通し生きてきた大勢の人々がいることを子どもたちに教えることが、教育者としての私の使命であると悟らせた一冊である。

書名 「雑記帳」復刻版
著者名 松本竣介編集「雑記帳」
復刻刊行委員会
出版社 松本竣介編集「雑記帳」
復刻刊行委員会



池袋モンパルナスを華やかに駆け抜けた画家松本竣介が編集・発行を手掛けた雑誌の「雑記帳」の復刻版全14巻です。
絵だけでなく、文章もそして編集者としての才能にもすぐれていました。

児童向け



書名 「おじいちゃんちでおとまり」
著者名 なかがわちひろ さく・え
出版社 ポプラ社

主人公の男の子が、初めて一人でおじいちゃんの家泊まり、おじいちゃんから海での冒険話を聞き、楽しいひとときを過ごすというお話です。



書名 「亜愛一郎の狼狽」
著者名 泡坂妻夫
出版社 創元推理文庫

豊島区は実はミステリーと縁が深い。かつて江戸川乱歩が暮し、ミステリー文学資料館があり、多くの小説の舞台ともなり、そして第一級のミステリー作家、泡坂妻夫が住む。氏の人柄と作品の魅力については、本書や続

編「亜愛一郎の転輿」の巻末解説に詳しいが、遊び心溢れる設定と、眉目秀麗なくせに素っ裸けた名探偵の謎の解きぶりは誠に鮮やかで、まるで手品のようだ(実際、氏はマジシャンとしても一流なのだ)ぜひ一読を。

簡単・便利・スピーディーな「自動貸出機」をご利用ください

新中央図書館には、ご自身で資料の貸出が簡単な操作で行える「自動貸出機」を設置しています。ぜひご活用ください。4階に3台・5階に2台設置してあります。

＜自動貸出機の使い方＞

① バーコードリーダーに利用者カードのバーコードを読ませます



② 借りたい資料を台に置き、貸出ボタンを押してください



2~3秒お待ちください

③ 貸出手続き終了後、返却期限票として資料一覧のレシートが出ます

まとめて複数冊の貸し出しができます。

新劇場あうるすぽっと開館 柿落とし公演開催！

ミュージカル 「ハロルド&モード」

19歳の青年「ハロルド」と天真爛漫な老婦人「モード」が繰り広げる涙と笑いに満ちた、大人の恋のミュージカル。

9月20日(木)～9月30日(日)

出演 大方斐紗子 三浦涼介 旺なつき 杉村理加 立川三貴

チケット 一般：5,500円 区民割引：5,200円

チケット発売中

駅・ターミナル

「日本初のターミナル」新橋駅を舞台に伊藤博文と津田梅子の一生を綴った明治期のロマン劇。

10月4日(木)～10月14日(日)

出演 外山誠二 久世星佳 村上博 金子由之 林次樹 本田次布 岩下まき子 ほか

チケット 一般：5,000円 区民割引：4,700円

前売開始：7月23日(月)

海と日傘

夫婦の間にだけ流れる情愛を日々の暮らしを通して描いた、心に染み入る感動作。

10月30日(火)～11月11日(日)

出演 竹下景子 平田満 ほか

チケット 一般：5,000円 区民割引：4,700円

チケット発売中



平田 満

竹下 景子

朱雀家の滅亡

三島由紀夫の代表作を豪華キャストで。華やかな華族の一家を通じて生きる意味を問ひかける。

12月4日(火)～12月16日(日)

出演 佐久間良子 窪塚俊介 中嶋しゅう 森田彩華 金田龍之介

チケット 一般：7,000円 区民割引：6,500円

前売開始：9月15日(土)



佐久間 良子

金田 龍之介

チケットお問い合わせ

◇一般チケット

ぶれいすチケットセンター 03-5468-8113 (11:00～18:00 発売開始日以外は平日のみ)

「駅・ターミナル」のみ 木山事務所 03-5958-0855

◇区民割引・としま未来友の会割引

としまらいふチケットセンター 03-3590-5321

(豊島区民センター2階) ※区民割引は窓口で証明書を提示してください。

上演についてお問い合わせ

あうるすぽっと 電話03-5391-0751

あうるすぽっとホームページ

<http://www.owlspot.jp/>

特別展示のお知らせ

中央図書館では、あうるすぽっと柿落とし公演や図書館特別講演会に関連した図書・資料等の展示を行っています。
9月中旬からは『朱雀家の滅亡』、三島由紀夫関連の展示を行いますので、4階特集棚、5階特別展示コーナーをご覧ください。

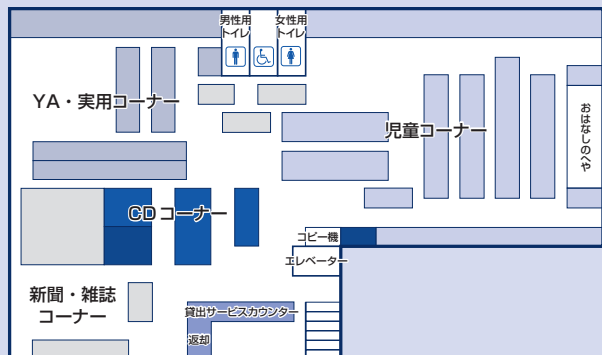
地域の図書館紹介「上池袋図書館編」

上池袋図書館は、平成3年1月に(仮称)上池袋鉄道公園(現さくら公園)及び(仮称)上池袋公園図書館(現上池袋図書館)建設事業用地として、旧日本国有鉄道清算事業団より購入し、平成5年7月に開館された地域図書館です。

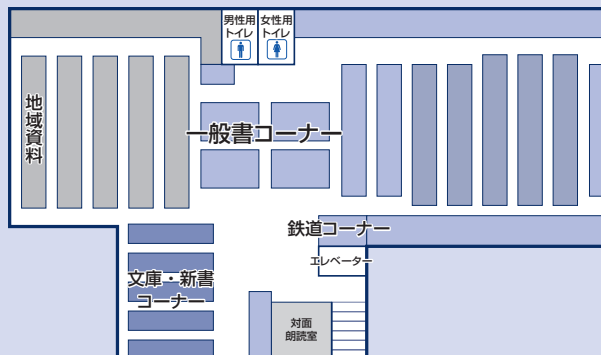
さくら公園には、豊島区を起源とした「ソメイヨシノ」だけではなく、「彼岸ざくら」や「大島ざくら」など開花時期の違う桜もあり、お花見の季節にはいろいろな種類の桜を長く楽しめます。

豊島区では地域図書館が、それぞれの地域の特色を活かした図書館づくりを目指しています。当館では、前述したように元国鉄の池袋電車区の跡地であることから、「鉄道に関する本」を積極的に収集しており、2階に「鉄道コーナー」を設けています。また、児童書や中高生向けの資料も充実させてまいります。是非一度、お立ち寄りになり「読書の秋」を堪能されてはいかがでしょうか。

1F平面図



2F平面図



豊島区立上池袋図書館

- 住所：〒170-0012 豊島区上池袋2-45-15
- 電話番号：03-3940-1779
- 交通案内：東武東上線 北池袋駅 徒歩5分
踏切または地下道を越えて、1つ目の信号の交番前を右折する。約500m進むと右側に上池袋さくら公園の奥に図書館があります。
- 閲覧席数：66席



豊島区伝統工芸

多岐深提燈考

江戸提灯制作販売の瀧澤提灯店は、東池袋4丁目新中央図書館のお隣、エアライスタワ1階にある。明治時代に大塚で開業。昭和に入つて日出町(現東池袋)に移転した。三代目の瀧澤光雄さんは、父のもので16歳

◆第1回「江戸提灯」
豊島区伝統工芸保存会会員の皆様をご紹介します。



大提灯の前面に墨書する瀧澤さん

から江戸提灯の作り方を学んだ。今でも「墨」で家紋や文字を描く伝統を守っている。「墨は、なかの灯りを透過して明るく、風情があるからだ」という。昭和26年、父が制作した大提灯が身延七面山敬慎院に奉納された。今から8年前、その提灯を掛けかえることになり、瀧澤さんは直径1.8mの大作に挑んだ。提灯の前面に「天法七面大明神」と墨書された大きな文字も、背面の寄進者名も、ひとつひとつの文字を職人こだわりの「墨」で描き上げた。

ボランティア紹介

図書館でボランティアとして、また自主的に活動されている皆様をご紹介します。

「豊島区親子読書連絡会」

昭和47年、全国的に親子読書会運動が高揚するなか、「子どもと読書」をテーマに豊島親子読書会(現池袋親子読書会)が発足されました。その後、千早や巣鴨でも会ができて、これら地域の会が交流し学びあうことを目的に昭和54年に連絡会が結成されました。やがて7つの親子読書会になった連絡会では、図書館を活用して親子で本を読み合うなどの活動のほか、自分たちの住むまちの歴史を調べて「郷土かるた」や紙芝居「すずきみみずく」を創作するなど個性あふれる活動を意欲的に行っていました。また、昨年は、前会長の故大松幾子さんが、会報

に掲載されていた読書会・連絡会の歩みをまとめられた「読書会は花あかり」を出版されました。草創期の様子が偲ばれる貴重な記録であるとともに、いきいきとした豊島のお母さんたちを肌で感じることができるといえます。連絡会では現在、池袋・巣鴨親子読書会が会舎や講演会の開催、会報の発行などさまざまな活動を継続しています。子育て真っ最中のお母さんの参加も募集中です。(出版物はいずれも図書館にあります)

【連絡先】
代表 小林 和子
電話 03-3917-6106

お店探訪 ~八勝堂書店~



八木勝 社長

池袋駅西口から徒歩6、7分の西池袋5丁目八勝堂書店がある。1階は古書籍と共にレコードやCDが、2階には文科系書籍を中心に古書や書画が床から天井まで隙間無くびっしりと並べられている。店舗前の通りが最近「乱歩通り」と名付けられ、社長八木勝氏はその商店街の活性化にも尽力されている。昭和22年から神田八木書店アパルト部の勤務を経て、昭和36年に「たまたま」池袋に開業されたそうである。現在は古書目録・インターネットト販売が主流であるが、一昔前まで店頭販売、特に全国各地で開催された古書販売会の盛況の様子だけでなく、土地柄立教大学、日本大学芸術学部学生の卒業論文作成の相談にも乗るようなお客との親密な付き合いや、日本近代文学館設立準備室が池袋にあった時代の文学者、作家との思い出等々懐かしいお話を伺えた。「お客が探しているものを提供でき喜んで貰えること、またお客から学ばせて貰えることこそ古書店員に尽きる」とのお話は図書館にも相通じると納得し、さらに「古書店のネットワークを上手に利用して欲しい、協力を惜しまない」との言葉に、図書館資料充実の応援者の存在を心強く感じた。(川)

中央図書館 特別講演会へご招待

無料

平成19年11月12日(月)・13日(火) 会場「あうるすぽっと」

募集各280名 講演会の受講をご希望される方は、下記の申し込み方法をご覧ください。

12月4日から劇場あうるすぽっとで公開される舞台『朱雀家の滅亡』にちなんで、本舞台の演出家が語る本の読み方と、原作者「三島由紀夫」の人物像にスポットをあてた講演会の2本を行います。



11/12 (月) 「演出家的本の読み方」

— 『朱雀家の滅亡』にちなんで —

演出家

宮田 慶子 氏
みやた けいこ

プロフィール

昭和32年、東京生まれ。学習院大学国文科中退。昭和45年劇団青年座に入団。水上勉作「フナよ、木からおいてこい」の演出で東京都優秀児童演劇測定優秀賞、児童福祉文化賞優秀賞を受賞。平成2年「セムタイム ネクストイヤー」の演出で注目を浴び、「サラ」で第9回読売演劇大賞最優秀演出家賞を受賞。演出活動のみならず、演劇教育、地方の演劇人との交流とその輪を広げている。

※特別講演会には、手話通訳がつかます。

11/13 (火) 「三島由紀夫と学習院」



作家

関川 夏央 氏
せきかわ なつお

プロフィール

昭和24年、新潟県生まれ。上智大学外国語学部中退。昭和58年、『ソウルの練習問題』で一躍世間の注目を浴びる。『海峡を越えたホームラン』で第7回講談社ノンフィクション賞、『司馬遼太郎の「かたち」』、『二葉亭四迷の明治四十一年』など『人簡と時代を丹念に専身大で捉えた評論の域を超える斬新な創作活動』により第4回司馬遼太郎賞受賞。時代や社会の有り様を鋭くえぐり出す巧みな作家として定評がある。

図書館からのお知らせ

図書館イベント情報

各地域図書館の連絡先

□駒込図書館 3940-5751 □上池袋図書館 3940-1779 □千早図書館 3955-8361
□巣鴨図書館 3910-3608 □池袋図書館 3985-7981

◆児童・あかちゃんおはなし会 毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てください。

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント	
	幼児・小学生	あかちゃん	9月	10月
中央図書館 児童コーナー	日曜日 2時	準備中	★2日・おはなしこうさく会 工作 2時	★7日・おはなしこうさく会 工作 2時 ★21日・おはなし会スペシャル～文字・活字文化の日～ 20日のおはなしのはこはお休みです。
駒込図書館 (駒込地域文化創造館)	土曜日 3時	—	—	★27日・おはなしのはこ 文字・活字文化の日スペシャル
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 3時	最終水曜日 11時	★5日・スライド 3時 ★12日・おはなし会スペシャル 3時 ★26日・工作 3時	★17日・工作 3時 ★24日・文字活字文化の日スペシャル 3時 ★31日・子ども映画会 3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 3時	最終水曜日 11時※	★26日・さくらんぼえいがかい 3時※ よっちゃんの不思議なクレヨン ミッキーマウスとまほうのぼうし	★24日・さくらんぼおはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル※
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 2時	—	★22日・たんぼえいがかい 2時 ごんぎつね・ミッキーマウスとブルート	★27日・たんぼえいがかい 2時 くまのおいしゃさん すてきなコンサート・雄牛のフェルナンド
千早図書館 視聴覚室	水曜日 3時30分	水曜日 10時30分	—	★24日・ほんとおはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル

※日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

地域研究ゼミナール 受講生募集

豊島区に關係の深いテーマについて、図書館の資料を活用し学びながら、自分の研究テーマを探るゼミナールを開講します。

第二弾は「池袋モンパルナス」入門

講師 尾崎真人(おざき しんじん)氏(豊島区図書館専門研究員・京都市美術館学芸課長)
※尾崎真人氏からのメッセージは図書館通信創刊号をご覧ください。

日程 全5回 第1回 10月14日(日) 「池袋モンパルナス」の概論と美術地誌
第2回 11月17日(土) 講義・作家事例 その1
第3回 20年11月12日(土) 講義・作家事例 その2
第4回 2月9日(土) フィールド・ワーク「郷土資料館～さくらがおりレテノ跡ほか」
第5回 3月8日(土) 研究発表

時間 午後3時～5時(ただし、2月9日のフィールド・ワークは午後1時30分～午後5時)

会場 図書館会議室・あうるすぽっと会議室A

費用 500円(フィールド・ワーク傷害保険料、資料代) ※会場への交通費、フィールド・ワークの交通費等は各自負担です。

募集 30名

ゼミナールの受講をご希望される方は、右下の申し込み方法をご覧ください。



◆千早進歩自由夢

申込不要。当日、千早図書館へ直接お越しください。

●9月15日(土) 10時～ 教育考「大正自由教育と西池袋」

講師：城西大学附属城西中学高等学校長

東谷 仁氏(とうごく ひとし)

大正デモクラシーの時代に、それまでの国家主義に基づく画一的教育を見直し、子どもの個性を尊重する新教育運動が、この西池袋の地域から起こりました。成蹊学校、自由学園、池袋児童の村小学校(城西学園)である。

東洋のベスタロッチといわれた教育学者野口援太郎はじめ、中村春二、羽仁もと子の3人の教育者の足跡をたどりながら、新しい教育運動がなぜこの西池袋の地から始まったのかを検証します。

●10月20日(土) 午後1時～ 「史跡散歩」千早・要・長崎地区を訪ね学ぶ
案内：細野一雄氏



各種申し込み方法

- ※申し込み方法は2種類です。
- ※ひとつの行事に重複して応募された場合、2枚目以降は無効です。
- ※応募者多数の場合は抽選となりますので予めご了承ください。
- ※いずれも申込期限後1週間程度で当落の通知をします。

1 往復はがきに①～⑤を記入し、下記送付先へお送りください。(はがき1枚につき1件の申込みでお願いします。)

- ご希望の講演名・ゼミナール名
「宮田慶子氏講演会」「関川夏央氏講演会」
「地域研究ゼミナール池袋モンパルナス」
- 郵便番号
- 住所
- 氏名(ふりがな)
- 電話番号

◆申込期限 講演会は10月26日(金)消印有効
ゼミナールは10月5日(金)消印有効

◆送付先：〒170-8442 豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル5階
中央図書館 企画調整担当

2 電子申請でも受け付けます。
豊島区ホームページアドレス <http://www.city.toshima.tokyo.jp>

ビジネス支援講演会

としまものづくりフォーラム 第1回 テーマ「都市印刷業の新展開」

【日時】平成19年11月14日(水) 19時～21時

【講師】日本大学商学部非常勤講師 山本篤民(やまもとあつみ)氏

【会場】あうるすぽっと会議室B

【定員】100名(先着順)

【費用】無料

【申込】当日直接会場まで

【主催・問合せ】豊島区文化商工部生活産業課商工政策係

電話：03-5992-7089/FAX：03-5992-7088

Eメールアドレス A.0014205@city.toshima.lg.jp

図書館カレンダー

●は休館日

日	中央図書館							駒込・巣鴨・上池袋・池袋・千早図書館							雑司が谷図書館貸出コーナー ☎3990-1335										
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土				
9月							1	2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8				
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15				
	16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22				
	23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29				
	30							30							30										
10月								1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13				
	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20				
	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27				
	28	29	30	31				28	29	30	31				28	29	30	31							

白鳥図書館は建物の老朽化に伴う改修工事のため、平成19年9月1日(土)～平成20年9月初旬(予定)の間、休館します。

編集後記
今年の夏は本当に暑かったですね。毎年扇風機だけで夏を乗り切るエアコン嫌いの私ですが、今年は我慢できずにスイッチを入れてしまいました。おかげで風邪は引くし、地球の温暖化を助長してしまっただけで後悔しています。皆様も夏の疲れを早めにとって秋の夜長、読書の秋を楽しんでくださいね。(真)